

障がい者の社会への“完全参加と平等”を！

ときめきFukuoka

2022.7
No.264



あなたは何を守りますか？

— “モノ”の備えと“ヒト”の繋がり —

- 05 福障協だより「第15期定期総会開催」
- 07 身障協だより「第67回日本身体障害者福祉大会ふくおか大会開催」
- 10 福岡市身障相談員総会・辞令交付式
- 11 7月・8月の企画展示情報～福岡市介護実習普及センターより～

あなたは何を守りますか？

—モノの備えとヒトの繋がりに—

今回は「防災」をテーマに、ご自身が防災士であり、夫が消防士、父も祖父も消防士という消防一家で、現在中学二年生の娘さんが通う南福岡特別支援学校のPTA会長として、公私共に活躍中である因幡さんに、防災への日頃の心構え等をお伺いしました。

防災と障がいのある子どもを育てることは似ていると思う

障がい者と暮らすという事は、常に「もしも」のアンテナを張っている状態だと思います。ですので、改めて防災に対して意識したという感じではありませんでした。

災害で一番恐れることや、障がい者が意識をすべきこと。

それは、備えの不足

当たり前のように日々を過ごしていますが、もし災害が起きたら物が品薄になります。特に障がい者にとって必要な物が手に入りにくくなります。日頃から備えについて考えておくことが必要です。なぜなら、被災した時こそ普段の生活スタイルに近づけることが重要だからです。

ポイント①

まずは家族を含めた自助が大切です。自分や家族が安全なら、地域に

心が向けられるからです。

具体的には、非常用の備品に自分が好きな物も忘れずに入れておきます。好みのお菓子や、好みの日用品がオススメです。自分の心を落ち着かせられたり、家族の気持ちが落ち着きます。

避難所へ行けない・避難所での生活は難しい。だから、在宅避難という選択

ポイント②

在宅避難を選択するのであれば、蓄電池の備えをオススメします。

ライフラインが止まった時に心配なのは停電による暑さ寒さです。また、スマホやラジオによる情報の入手です。あらゆることを想定し、なるべくバッテリー容量が大きい蓄電池を準備されると良いです。発電機やガスボンベで電気を供給できるものもありますが、日頃から蓄電できる蓄電池

が良いです。バッテリーの容量が大き

ければ、医療器具に使えたり、扇風機や暖房にも使えます。価格はおよそ10万円程度です。(※医療機器や精密機器には『正弦波』のものを使用)

水や支援物資は、給水車等からの供給となります。行政からの情報や、地域の情報がキャッチできるように地域の方との繋がりは不可欠です。

ポイント③

風水害時の在宅避難は、垂直避難を考えましょう。水害の可能性がある風水害の場合は、戸建てにお住まいなら、早い段階で上方へ避難すると良いです。ただし、人が避難する前に大切なお薬や衛生用品、着替え等の物を先に上げてください。マンション等集合住宅にお住まいなら、管理人さんや住民の方と事前に相談して上層階へ避難できる環境を整えると良いです。



数ある防災グッズを楽しく紹介



在宅避難のメリットとデメリット

ポイント④

在宅避難のメリットは、日常生活に近い状態で過ごすことができるので、精神的にも物理的にもストレスが軽減されます。

一方、デメリットは、地域からの情報が入りにくくなります。避難所なら行政からの情報が早いですが、断水時等の給水車による配給等の情報が遅くなります。

被災時のグッズのオススメ

ポイント⑤



明かり（照明）が無ければケガに直結します。明かりを家の中に分散して備えると良いです。無防備の時にやってくる地震が一番怖いので、枕元や脱衣所等、身を守るための明かりを置いておくことが理想です。百円均一の物等安価な物で十分です。



日用品を利用した様々な照明

ちなみに、水害による避難時には杖の使用が有効です。なぜなら屋外へ避難する時、水深わずか10センチでも足元が見えづらくなります。もし側溝があったりマンホールのフタが開いていたら、2次被害の可能性もあるからです。

情報入手の補足ですが、風水害であればスマホで雨雲の動きを確認できます。また、テレビでもL字放送（注）が早めに表示されるようになりました。一方、地震速報も届くのは届きますが、発生寸前ですね。それこそ備えが必要です。

余談ですが、普段長女に使っているグッズと避難時に使うものが同じ時があります。例えば赤ちゃんを育てていると、赤ちゃんバッグをお母さん達が持ち歩きますが、非日常の準備と近いかも知れません。また、アウトドアと災害時も近いですね。ライフラインの無い自然の中でキャンプをして楽しみますね。ですので、講座で紹介する防災グッズの中にはアウトドアグッズやベビー用品、介護用品、そして身近な日用品が多くあります。

注）テレビ放送中、左端と下方にテロップ用の帯が表示されるもの。例えば「台風情報」という見出しが左帯に表示され、下方の帯に各地域の情報等がスクロールで表示される。



日常生活防災講座（東障がい者フレンドホーム）

因幡 那水（いなば・なみ）

平成29年（2017）に防災士を取得。以来、防災啓発に日夜取り組んでいる。月1～2回、小学校、特別支援学校、公民館、障がい者施設等から講座の依頼を受けている。令和元年（2019）横浜市の小学校で実施された救援物資搬送訓練にも協力し、防災講座を担当。また、最近では九州大学芸術工学部へ招かれ、精力的に活動している。講座の内容は日常生活に即したもので、具体的かつ単純明快である。自身が持参した様々な防災グッズを紹介しながら、巧みな話術で受講者を引き込んでいく。





最後に、障がい児の親として感じることは、障がい児は校区の学校に通わないので、校区関係者の関わりが少なく、居住校区の情報が入りにくいですね。ですから、小さい頃から校区の行事に積極的に参加しました。自分の子を知ってもらうことを目的に、お祭りにも積極的に参加しました。

小学生の時は、同級生と知り合う機会がありました。年齢が上がると会う機会が少なくなりま。ですから、今でも時々地域に姿を出しています。それは、地域の皆さんに娘のことを知ってもらいたいという思いからです。そして、何かの折に思い起こして欲しいからです。



因幡 保允 (いなば・やすまさ)
消防司令補
春日・大野城・那珂川消防組合
消防本部 予防課 予防係 危険物
担当 消防士の傍ら、防災士の
資格も取得。



因幡さんのご家族(烈さんの祖父・敏幸様、祖母・勢津子様と)

防災について強く思うこと 父として、消防士として

在宅避難について

この家は、平成24(2012)年に建てました。東日本大震災の翌年のことです。福岡は警固断層があるため、その懸念から鉄筋コンクリートにしました。また、娘が3歳の時でしたので、当時在宅避難という言葉はありませんでしたが、妻は「何か起きた時、この家でこの子を守らなければ」と強い思いを持っていましたから、在宅避難を想定した家にしました。

守って、守られる

災害が起きた時、障がいがある方にとっての自助には限界があります。私の娘のような障がい児であればなおさらです。どうしても周りの方に助けを求めなければなりません。そのためにも地域との繋がりを強くしておく必要があります。日頃から災害への備えは大事ですが、地域との関係作りはなお大切で、これは物には変えられないと思っています。特に一人では動けない、言葉を話せない障がい児にとっては、地域の方に知ってもらう事が大切で、このことが地域の防災力「守って、守られる」自助と共助に繋がると信じています。



グッドデザイン賞を受賞したご自宅